

みなさんはどのように過ごしているでしょうか？

「自粛はしても委縮はしない。気は緩めず、でも気持ちはふさがない」と入学礼拝の動画メッセージで送りましたが(HP参照)、みなさんの日常生活に思いを馳せます。

本校では大幅なスケジュールの見直しや、コース登録者にはオンライン授業をはじめています。6月には少しでも安心して生活ができ、スクーリングがスタートできることを願っています。三密を避けるため、在校生は今までと違ったスクーリング回数や方法になっていますので、連絡事項によく目を通しておいってください。

大阪YMCAでは、連休中に大規模なアンケート調査を行いました。国内と海外4か国(韓国・香港・シンガポール・オーストラリア)の小学生・保護者、YMCA在籍留学生を対象に、休校になってからの変化について実態調査です。今後、今の状況が終息してから再調査をし、分析し、このような健康と暗算が脅かされる世界大の閉塞状況の中で、YMCAが何をすべきかを検討していきます。

今回のアンケートでは、留学生は「学校にも行けず、アルバイトもできず、生活が厳しい。国にも帰られない」、春休みに一時帰国した学生は「日本に戻りたいのに戻れない」と悲痛な声があがっていました。子どもは友達に会えないことやコロナ感染についての不安を訴え、保護者は「何もいいことがない」と苦しい心中を吐露される方もいる中、半数以上は子どもとゆっくり関われる時間がとれたことを喜びとされていることにほっとしました。

このような時でも、季節は巡り、目に鮮やかな新緑の時期を迎えています。植物たちにはどのように人間の世界が映っているのでしょうか。春の花々を愛で、夏を彷彿させる青い空、心地よい風、いつも以上にそれを味わえていることに気がつきます。神様の試練というには大きすぎる試練ですが、世界中同じ状況。聖書には「試練は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。希望は人を欺くことはありません(ローマの信徒への手紙5:3-4)」とあります。このコロナ禍にあって、私たちは何を耐え、何を鍛え、練り上げて希望につなげていくのか、日常とは違う流れの中で、少しでも希望をもてること、希望が生まれることを神様に祈り求めます。

(校長 鍛治田千文)